

日本聖公会 神戸教区報

神のおとずれ

2021年 11月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<https://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者
司祭 上原 信幸

印刷所
文明堂印刷所

人生の秋 〜諸聖徒日からアドヴェントへ〜

司祭 マルコ 藤井 尚人



十一月は逝去者の月(十一月一日)諸聖徒日・十一月二日(諸魂日)、キリスト教のお盆は晩秋です。ところで、皆さんは「世界病者の日(二月十一日)」をご存知でしょうか。カトリック教会の祝日で、教皇ヨハネ・パウロ二世によって一九九三年から始まりまし

た。この日は「ルルドの聖マリアの祝日」でもあり、病気が癒される人、苦しんでいる人が、自らの苦しみと不安の意味を「特別な時」として受け止めていくための必要な魂の援助を得られるよう、医療関係者だけでなく、広く社会一般に向けて毎年、教皇からのメッセージが発表されています。

「キリスト教の共同体は、癒しの共同体です。それは、そこで傷が治るとか、痛みが軽くなるからではなく、その傷や痛みが、新しい展開の機会

や始まりとなるからです」というヘンリー・ナウエンの言葉を思い出しました。

諸聖徒日のお祈り

諸聖徒…、それは、特別に偉大な信仰者のことではなく、新約聖書の時代「キリストを救い主と告白した信者」は、すべて「聖徒」と呼ばれていたそうです。祈禱書の二五三ページをお開き下さい。諸聖徒日の特権は、こんなお祈りです。

【全能の神よ、あなたは、主に選ばれた人びとを結び合わせ、み子イエス・キリストの体である公会に連ね、その交わりにあずかせてくださいました。どうか、わたしたちに恵みを与え、祝福された聖徒たちにならって常に清く正

しく生き、終わりの日に主を愛する者のために備えられた大きな喜びにあずかせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン

幸いなるかな
諸聖徒日の福音書には、イエスさまの「山上の説教」が選ばれています。心の貧しい人々は、幸いである。天の国はその人たちのものである。悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる。柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ(マタイによる福音書五章)。このイエスさまの公生涯の最初の言葉、この言葉こそ、キリスト教の福音の全て、と聞いていいと思います。ここで言われている心の貧しい人々とは、旧約聖書におけるヘブライ語の「アナウイム」という意味を含んでいることを、教えられました。アナウイムとは、この世の富や、健康

や、社会から見捨てられた人々。それ故に、神の愛だけを深く信じて、毎日を柔和に生きている人々。その姿は、神への信仰だけが、人生のマイナスと思われる辛い状態を、驚くべきことに「幸いである」というプラスに変えることができる、という神の愛の奇跡を「証し」しているので

そして、新しい年へ
十一月、逝去者の月が終われば、教会のカレンダーも、今年、十一月二十八日から新しい年となり、アドヴェント(降臨節)が始まります。クリスマスツリーに点灯をし、幼な子イエスの誕生を待ち望む、あの不思議な気配のワクワクする季節。そして、クリスマス喜び。暗闇から光へ、それは、私たち、みんなが知っている、希望の季節。アドヴェントです。

(広島復活教会牧師
呉信愛教会管理牧師)

教区のマネジメント

イエスは彼らにこう言われ

た。「全世界に出て行き、すべ

ての造られた者に、福音を宣

べ伝えなさい。」(マルコ十六

章)

り前になっているからです。

教会のお金

教区も教会も、望ましい状

態は、恒常的な支出を恒常的

な収入で賄うことです。冠婚

葬祭などの一時的な献金収入

もあります。もとより当て

にするものではありません。

また教区にも教会にも特別

会計や積立金という名目の貯

えがあります。これに頼る

ことも正常な状態ではありま

せん。目的があつて取り置か

れるもので、安易に使つては

いけないのです。

しかし、これらのことをみ

んな解つてはいても、そうせ

ざるを得ない状況が近づいて

いるのも現実です。

信徒が増えない？

増やさない？

福音を伝えない？

「信徒が減る＝収入が減る」

という構図ですが、これは実
は教会活動の本質にかかわる
問題です。福音にあずかる人
が減っているわけですから。

「教会は仲良しクラブではいけ

ない」と言われますが、この仲

良しクラブでさえも維持が難

しくなっています。「退会者」

の数より「新規入会者」の数の

方が少ないのです。

「私たちはこういう集まり

だ、気に入ったらいらつしや

い、入れてあげる」というスタ

ンスはみ心になつてきているの

でしょうか。

どんなきっかけでも、教会

に足を踏み入れよう、とする

人が新たに出てこない限り、

信徒の数は減る一方です。冒

頭に挙げた教会の使命を充分

に果たしていない状態です。

囲いの中にいる羊のケアは

とても大切なことですが、囲

いの外にも羊は多くいるはず

です。ただ扉を開けておくだ

けではなく、救いを求める人

の気持ちを知ろうとしない

と、どちらに向けて扉を開け
ばいいのかさえわかりません。

ここから

教区活動には組織の維持が

必要ですが、今進めようとし

られている「伝道教区」や「宣教

協働区」果ては「教区合同」な

どは、縮小してバランスを取

ろうとする、極めて苦しい選

択です。

戦後七十五年間やってきた

ことの積み重ねがうまくいか

ない、事業としては成功して

いない、縮小するしかない、

というのが現状です。

現状が望ましくない状態で

あるなら、修正が必要です。

昔はよかった、今がおかし

い、ではなく、今から始める

しかないのです。

事業体として

教会も事業体として、お金

のことに無縁ではいられませ

ん。やることをやってみれば

お金はついてくる、と言われ

たことがあります。全くその
とおりで、逆に考えれば、や
ることをやっていないから、
お金で苦勞しているわけで
す。これはもはや組織として
切実な問題です。

経営、戦略、市場調査とい

う言葉は、教会に似つかわし

くないと拒否反応があるでし

よう。こう考えてみましょ

う。何かで困っている人がい

て、その人に教会がどのよう

に寄り添うか、どうすれば救

いがあると伝えられるか、よ

り多くの人に福音を伝えるこ

とになるのか、と考えること

は、経営そのものです。

福音宣教と、お金と、信徒

数はすべて繋がっています。

そろそろそのことに向き合っ

て行動する時だと思えます。

模範解答はありません。ある

のは現実です。

(教区宣教委員
東 弘彦)

オーガスチンの まなざし



主教 小林 尚明

「ヨシユア前田次郎 司祭逝去」

九月十一日(土)前田次郎先生の奥様千代子さんが、逝去されました。家族葬で十一日通夜の祈り、十二日葬送式を垂水伝道所で行いました。

それから今度は、二十日(月)前田次郎先生が肺炎のため、八十九歳で逝去されました。ご家族に心からお悔やみ申し上げます。今回もご家族からコロナ禍ですから家族葬でお願いします。と依頼されましたので、聖ミカエル教会で二十一日通夜の祈り、二十二日葬送式と各々の司式、説教をいたしました。ご夫妻の天国における魂の平安をお祈りいたします。

前田先生と初めて親しくお会いしたのは、大学四年生の時で約四十年前のことです。教区の青年交流会が復活して、様々な活動をしていましたが、黙想会をしたい、という私の願いが叶って、当時垂水の山にあった聖使修士会の修道院で行われ、前田先生を

講師としてお招きしました。いろいろなお話を聞きました

と思います。一つ覚えていたのは、マタイ伝十四章にある「湖の上を歩く」というお話です。湖の上で逆風のため漕ぎ悩んでいる弟子たちの所へ水の上を歩いてイエス様が来られます。弟子たちは幽霊だと思って恐れますが、イエス様だとわかるとペトロは自分も水の上を歩いてそちらに行かせてください、とお願います。イエス様が「来なさい」と言われ、ペトロは水の上を歩いてイエス様の方へ進みます。しかし、強い風に気がついて怖くなり、沈みかけ、「主よ、助けてください」と叫ぶとイエス様は手を伸ばし助けた、というお話です。そこから前田先生がお話くださったのは、信仰生活とはイエス様を見つめて進むこと、しかし、生活して進めば思わぬ出来事(風)が起こってくる。その時にペトロのように「主よ、助けてください」と叫ぶことが大切。必ずイエス様は助けて下さいますと教えて下さいました。

なるほどなあ、聖書とは、

こういう風に読むものなのか、と心から納得しました。今でも忘れられない青春のよい思い出です。次の年、私は聖公会神学院に入学していきます。前田次郎先生、本当にありがとうございました。

(神戸教区主教)

オンラインフォーラム 「原発はやめようよ」報告

日本聖公会では、「地球環境のために祈る日」から始まる一週間を「原発のない世界を求めよう」として

五月三十一日
「教会とエネルギー」、「核のゴミ」、「原発事故」

五月三十一日
「教会とエネルギー」、「核のゴミ」、「原発事故」

六月六日
「再生可能エネルギー」

六月七日

「私たちに出来ること、私たちの責任」、「私たちの教区・教会での働き」

一日目の開会礼拝では武藤謙一首席主教からメッセージを頂き、次に会津放射能センター代表の片岡輝美さんから「考えること悩むことは、いのちに向き合うこと」福島からのメッセージ」と題しての講演がありました。

原発問題プロジェクト委員の池住圭さんは今回のフォーラムの報告の中で、「期間を通して、エネルギーは私たちの信仰や教会とどのような関わりがあるのかに思いを巡らせながら、原発や核廃棄物の問題、再生可能エネルギーについて学びました。そして、原発といのち、いのちの尊厳について考え、意見を交わし、『原発といのちは共存できない』との共通認識を得たように思います。」と述べておられます。ほとんどのフォーラム参加者も同様の感想であるかと推察しています。

閉会礼拝では、正義と平和委員会委員長の上原榮正主教からのメッセージを頂きました。

神戸教区内には島根原発(適合性審査中)と伊方原発(停止中)〜いずれも二〇二一年七月現在ですが、あります。建設工事が中断されてから十年の山口県の上関原発も今後の見通しが立たないままです。『電化された便利な生活を享受し、産業資源の乏しい地方の活性化のために原発が必要だ』、と主張する声に、愛のある、説得力のある反論をしていくために私たちも学びを深めなくては、と思わずにはいられません。気を取られがちな目の前のコロナ禍に対処していく一方で、解決されないまま横たわっている様々な問題を見過ごすことなく、教区の皆様と共に考え続けていきたいと心から願うものです。

二日目以降は原発問題プロジェクト委員の尾関敏明さんから、課題ごとに六つの発題

正義と平和担当者
浜井美喜

鳩だより 〔敬称略〕

ご逝去

八月三十一日(火)

ペテロ 田中 瑞穂
浜田基督教会

九月十一日(土)

グレース 前田 千代子
神戸聖ミカエル教会

九月二十日(月)

司祭 ヨシユア 前田 次郎
神戸教区退職教役者

教籍異動

九月十九日(日)

サハラ 中畑 ゆき
徳島聖テモテ教会から
日本キリスト改革派徳島教会へ

12月の教区関係教役者
逝去記念聖餐式

日時 2021年12月2日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 小林 尚明
説教 司祭 瀬山 会治

※中止の場合がございます。恐れ入りますが、ご出席される方は、事前に教区事務所までお問合せ下さい。よろしくお願い致します。
教区事務所 TEL.078-351-5469

*12月の記念逝去教役者

2日	主教	チャニング	ウィリアムズ
2日	司祭	ヨハネ	長 壽 泉
5日	伝道師		森 慶 三
5日	司祭	テモテ	岩 井 祐 彦
7日	伝道師		武 田 頼 夫
10日	司祭	パウロ	島 田 信
10日	伝道師	パウロ	大 石 虎太郎
14日	宣教師	イブリン	プレストン
14日	司祭		水 野 功
14日	司祭	ペテロ	貫 主 税
16日	司祭		尾 形 虎 三
19日	宣教師	マリー	ホ ー ム ズ
20日	宣教師	ハナ	スコット
21日	司祭	ペテロ	加 藤 九十九
25日	伝道師	マリヤ	永 沼 輝 子
29日	司祭	マルコ	伊 墻 八 束
30日	宣教師	オードリー	ヘ ン テ
31日	司祭	マルコ	杉 野 貢



お詫びと訂正

神のおとずれ一〇月号四面の「十一月の教区関係教役者逝去記念聖餐式」の「十一月の記念逝去教役者」の中に「十一月十五日 司祭 ヨハネ 佐藤眞一」が抜けていました。
佐藤司祭のご家族をはじめ、読者の皆様へ深くお詫びし、訂正致します。
(広報部)

公 示

日本聖公会神戸教区第91(定期)教区会を
下記のように招集します。

救主降生2021年10月1日
日本聖公会神戸教区 教区会議長
主教 オーガスチン 小林尚明

記

日本聖公会神戸教区第91(定期)教区会
日時：2021年11月23日(火・祝)

午前9時から午後4時半まで

会場：教区会会場

(神戸教区主教座聖堂、および各会場)に
ついては追ってご連絡いたします。

本教区会を招集するにあたり、書記を
下記のように任命します。

司祭 ヨシユア 長田吉史
司祭 セバスチャン 浪花朋久

※尚、教区会は新型コロナウイルス感染防止のため
昨年と同様、リモートで行います。
ご理解とご協力をお願い申し上げます。

収穫感謝献金のお願い

《奉献先》神戸昇天教会、松江基督教会
《募金額》180万円

神戸昇天教会は「教会会館屋上屋根およびベストリー壁面の防水工事」、松江基督教会は「玄関、台所や納骨堂の小屋根の簡易塗装劣化に対する瓦棒塗装などの工事」の費用の補助として申請しています。各教会でお献げくださり、教会ごとにとまとめて11月23日(火)までに、神戸教区宛に振込送金をお願いいたします。